

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の共に歩む理念をもとにグループホームの目標を立て、職員個々の目標を作り実践できるよう取り組んでる	朝の朝礼や毎月の会議で、その人にあった介護が出来るように入居者目線での話し合いをし、常に「入居者、家族、地域と共に歩む」という理念のふりかえりをしている。理念にそぐわない言動があった場合には管理者が個別に面談をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お宮や子ども会の行事などに積極的に参加し、交流している	地元の方がホームの敬老会などに大正琴の演奏ボランティアとして参加している。子供神輿や小学校のボランティア委員の訪問もある。散歩途中に近隣の農家や住民からぶどう、花などを頂くこともある。ホームではもっと地域のお年寄りに関わりたいたいと考えているが、個人情報の収集については厳しく、お年寄りの実態把握が困難な状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアハウス、グループホーム、デイサービスの合同コンサートや救命救急講習会を開き、地域の方々の参加をお願いしている。学生の実習も受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、利用者様の状態、行事、認知症への理解について話し合い意見を頂いている	2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所の活動報告や入居者の様子が写真などで紹介され、参加メンバーとの活発な意見交換が行われている。町会の方に議事録をまとめていただいたり、時にはホームでの催し物のご案内をしていただくなど町会の中での協力者が増え、事業所への理解が広がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	派遣相談委員を通じ、利用者様への苦情、悩みを聞いていただいております、まとめの冊子を回覧し心のケアに繋げている	市の窓口には入居された方の介護保険などのことで個別に相談をかけている。管理者は「現場からのかかわりについて」他、市内各地区に講師で出向している。介護相談員が月に1度来訪し、直接の話し合いをしたり市からの報告も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や、研修会に参加し職員一同理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が講師となる施設内研修で学習し、主旨や弊害について十分に理解している。ホームの裏側が急傾斜地のため外出傾向の入居者の様子によっては玄関に施錠することがあり、家族からも了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や研修会に参加し、学びあう機会を持ち、虐待防止に努めている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、情報を共有し話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明を事前に行い、納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	派遣相談委員を通して苦情、悩み事の冊子を頂き職員に回覧し次に繋げ、家族には口頭、意見箱などを利用していただいている	遠方の家族が多いので、家族には毎月一人ひとりの生活の様子を写真で知らせ、併せて身体状況や連絡事項、現金残高などを書面で報告し、入居者と家族とが身近に感じられるように心がけている。家族会が年2回食事会も兼ねて開催されており楽しい一時となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中、ミーティング、個人面談を行い、意見を上長が把握し反映させている	月1回の定例会では気軽に意見を出し合い、課題について検討している。職員は自分の業務の年間目標を立て入居者との係わりの中で実践している。年2回管理者とその目標について話し合う機会をもち、ふりかえり後、次のステップに向けて新たな目標を設定し取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、一人一人に合った勤務形態にし働きやすくしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会や、勉強会を行い出れるように配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会の研修に参加し、他のグループホームの取り組みなどを参考にしている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に今までの生活歴、環境、性格、趣味や困っている事を本人、家族から聞き、個別ケアが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞く機会を作り安心、信頼のおける関係性を作る事に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の幸せを何かを把握し、ケアプランを作成し、必要な支援を行っており、他のサービスも利用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬、理解し昔話に共感し、時には知恵を頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は自由に来て頂き写真を撮り、次の面会の楽しみになるようにして頂いている。こちらからの要望も家族に伝えて協力していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや、正月の帰省などができるように支援している	お盆や彼岸に帰省し家族とお墓参りをする機会を設けたり、年末には年賀状を書かれる方の支援もしている。手厚い介護を受け、入居者の在籍期間も長くなる傾向にあるのでホームが心身共に「馴染みの場所」となるようにきめ細かなサービスの提供を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶の時の会話が継続するよう見守りをし、間に入り和む様になっている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方へは、お見舞いをしたり家族へ電話をしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人、その時に応じた希望、思いに添えるよう努めている	自分の思いを言葉で表すことが出来る入居者もいるが、表情やしぐさからも思いを受け止めている。遠慮がちな入居者には、食事時や居室などで常に話し、職員との関係が深まるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報を本人、家族、ケアマネから収集しミーティング、カンファレンス時に職員間で共有する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、排泄状態、本人の様子等を観察、記録し次へ繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームで変化があった時は報告を行い、現状に即したものにしており、定期的に見直しを行っている	本人や家族、担当の職員などの意見を聞きながら計画作成担当者によって介護計画が作成されている。毎月の会議で話し合いが行われ、見直しは3ヶ月に1度、状況が変わった場合には現状に即して変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を記入したり、ミーティングで話し合い情報を共有し次へ繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時における家族の気付き要望などを取り入れ、サービス改善に繋げている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、傾聴ボランティア、派遣相談員の訪問を通じ情報交換や協力を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に添ったかかりつけ医を利用している	入居時の話し合いにより家族等の了承を得て協力医に変更する場合がある。協力医による週1回の往診や訪問看護師の週3回の来訪がありきめ細かな健康チェックがされている。専門医の受診に付き添った場合には電話で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週三回訪問看護があり、日々の様子を伝え適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は協力医のもとに早期に入院できる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明し、同意を得ている。その都度家族、医師、スタッフと話し合いをしている	入居時に重度化や終末期のあり方を家族に説明し同意を頂いている。今年も看取りが行われた。最初不安であった職員も、家族、医師、看護師と心をつにし、勉強会等も経て、温かな気持ちで送ることができた。家族も感謝し、他の入居者も自然に受け止め、全員でお見送りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習会に参加したり、マニュアル、医師指示書があり想定訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウス、デイサービス、グループホームでの合同避難訓練を年二回実施している。地域との協力体制があり、運営推進会議で話し合っている	年2回消防署の指導で昼夜を想定した避難訓練が隣接施設と一緒に進められている。法人の防災管理担当者から指導を受け、随時、非常災害訓練も行われている。入居者には氏名や歩行状態などが書かれたネームプレートと真っ赤なタオルが用意されており、非常時に駆けつけた住民に一目で入居者とわかるような工夫がされている。	

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには、特に気をつけ周りへの配慮をしている	呼びかけは、苗字に様をつけて呼んでいる。施設内研修で「プライバシー保護について」職員間で話し合い、サービス提供時にも人生の先輩として敬意を払い対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で希望や思いを言いやすくなるようさりげない言葉掛けをするようこころ掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思、希望を尊重するように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、本人の希望に添い、一緒に買い物に行くように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の盛り付け、食材の下ごしらえなどやって頂き、自家菜園から一緒に収穫したものを出して食事が楽しいものになるように心掛けている	普段の献立は入居者の希望や冷蔵庫の中身などで決まる。誕生日には本人の好きなメニューが提供されている。一部は検食として保管される。入居者も盛り付けの手伝いなどをし、眼前に松本平が広がる展望台のような居間兼食堂で秋の花や紅葉で飾られた見た目も美味しそうな器で昼食を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、十分な水分摂取量を考えて食事作りをしている。水分摂取量が少ない方には好きなジュースなどを用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、週二回の入れ歯消毒を行い、口腔内の清潔に努めている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、失禁による不快感を減らすように声掛け、トイレ誘導を行っている	排泄表から一人ひとりの様子を読み取り、時間を決めて誘導するなど自立支援に努めている。夜間帯はオムツやりハパン、ポータブルを使用するなど個々の入居者に合わせたケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促す食事、散歩など身体を動かす事にも気を付けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回以上は入れるように支援している。入浴嫌いの方には無理強いせず、言葉使いに気を付けている	少なくとも週2回入浴している。二つのユニットの時間帯が午前、午後に分かれているので何時でも入浴できる。嫌がる入居者には言葉掛けを工夫し、本人の様子を見ながら声をかけている。先に造られた東雲棟の浴槽の使い勝手の不便さを解消するために風呂場の真ん中に浴槽が据えつけられており、三方向から支援ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠は換気、室温の調節をし、熟睡できるようにしている。昼休みは自室や、ソファで自由に休息して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用量について理解している。誤薬のないよう注意し、体調変化があった時は医師に連絡し、服薬調整をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、折り紙、ドリルなど本人の希望に添った事をしてもらえよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に応じ、散歩や買い物、デイサービスやケアハウスのイベントに参加できるよう支援している	天気が良い日には車椅子の方も自立歩行の方も思い思いのペースで散歩している。買い物も個別に支援し同行している。松本城の見学や花見などにユニットごとで出かけている。訪問時、隣接するケアハウスへコンサート鑑賞に出かける入居者の姿も見られた。	

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフで管理しているが、お金を所持し、買い物をしている利用者様もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば掛けるようにしている。定期的にお便りを下さる家族などがあり、やり取りが出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには生け花、観葉植物を置いたり、季節感のあるのれんを掛けたりしている。静かな音楽を掛けたり、空調にも配慮している	広々とした居間は日当たりも良く、ソファで眼下の眺望を眺めたり絵本を読むなど思い思いの過ごし方をしている。壁には行事の写真や秋を感じさせるタペストリー、棚にも秋の花を飾り、季節のめりはりを演出している。入居者は職員と共にこの居間で過ごすことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを置き、一人で外を眺めたり、仲間同士で会話をしたり思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族、本人、職員で相談し馴染みの物を置いている	日当たりの良い居室沿いには広いベランダがあり、夏には焼肉大会も行われる。入居者が自分で書いた達筆な書を飾ったり、家族の写真や入居者の顔入りカレンダーをさげるなどそれぞれの個性を感じる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なもの、不安になる物などは取り除き、安全で自立した生活が送れるよう工夫している		